

喫煙者の行動ひとつで火災を防ぐ! 「たばこによる火災」について
～ Let's study! ～

いざ! 防災

— 使える防災情報コラム —

『たばこによる火災』

本組合管内で、たばこによる火災は毎年発生しています。過去10年間では管内で92件のたばこによる火災が発生し、8名の方が亡くなっています。加熱式たばこの普及などにより喫煙が多様化し、改めて喫煙者一人ひとりが火災予防のために注意していただくことが大切です。



たばこによる火災統計 ▶

『たばこによる火災』

火のついたたばこの火種の温度は300℃、中心部分で800℃にもなり、布類や紙類が触れると簡単に焦げてしまいます。また、たばこは可燃物に触れていると、炎が出ずに長時間かけて燃焼する「無炎燃焼」が継続する特性があります。このことは、火災の発見を遅らせ、就寝時間帯などでは逃げ遅れが発生する危険性があります。

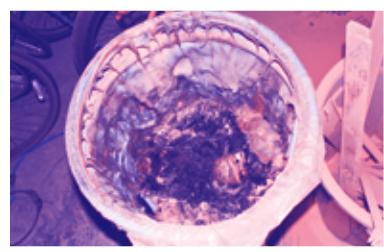


『たばこが原因の火災事例』

本組合管内で発生したたばこに起因する火災事例を紹介します。

CASE.1

火のついたたばこを誤ってゴミ箱に捨て、ゴミ箱内の可燃物に着火し火災となった。



CASE.2

自宅のソファに座りたばこを吸っていたところ、ソファに火種が落下したことに気が付かず無炎燃焼が継続し、その後火災になった。



CASE.3

灰皿に吸い殻が山盛りになっているにも関わらずたばこを灰皿に捨てたため、火種がこぼれ落ちて周囲の可燃物に着火し火災になった。



『灰皿に捨てっぱなしも危険!?』

吸い殻が山盛りのガラス製の灰皿にたばこを捨てると、吸い殻に着火し、無炎燃焼が継続します。しばらくすると、ガラス製の灰皿は蓄熱による膨張に耐えられず破損。飛び散った火種が火災の原因になる場合があります!



～ 事故を防ぐ予防策 ～

たばこによる火災は、喫煙中と吸い殻の処分に注意を払うことでその多くを防ぐことができます。ルールを守り、安全に喫煙しましょう。

安全に喫煙するために

- 専用の灰皿を使用する。
- 灰皿に吸い殻を溜めない。
- 吸い殻は水につけて処分。
- 外出前、就寝前には消火を確認する。



たばこによる火災の死者はすべて屋内で発生しています。住宅で逃げ遅れを防ぐためには住宅用火災警報器が有効です。正しく設置し、点検をしましょう。

住警器設置 孫の手作戦!

次のページへ ▶